



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第11号

2004.11.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県芸北町にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- 八幡湿原再生協議会が開催
- カワシンジュガイとアブラボテを展示
- アドレスが変更

活動報告

- 湿原の復元プロジェクト・ワークショップ
- サツキマスの産卵観察会

観察会案内

- 冬鳥の観察会
- 木の実と冬芽の観察会
- 千町原に草原を呼び戻そう！
 - 草刈り・除伐・片づけボランティアの募集-

花だより

- コナラ

お知らせ

八幡湿原再生協議会が開催されます (2004.11.7)
「八幡湿原再生事業」における検討協議会が11月7日13:00より、芸北町民文化ホールにて開催されます。一般の方も傍聴できます。近藤会長としらかわが委員として出席します。

カワシンジュガイとアブラボテを展示しています
(2004.10.24)

2004年の夏、芸北町では絶滅寸前と考えられていたカワシンジュガイ（町指定天然記念物）がまとまった個体群として確認されました。同時に、絶滅したと考えられていたアブラボテ（タナゴの一種）も生息が確認されました。アブラボテはカワシンジュガイに卵を産み付け、カワシンジュガイはアマゴに寄生して生長するという、密接な連鎖を持った生き物です。自然館にこれらを生態展示していますので、ぜひ見に来てください。

アドレスが変更になりました (2004.10.22)
高原の自然館のサイトアドレスが変更になりました。「しぜんかん. いんふお (めーしょん)」と覚えてください。ブックマーク・リンクなどに登録して頂いている方は、お手数ですが変更をお願いします。

【高原の自然館】 <http://shizenkan.info/>

活動報告

湿原の復元プロジェクト・ワークショップ

開催日時：10月16日(土)9:30～

主催：西中国山地自然史研究会

協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

今回の参加者は9人、ほとんどの方が、実験地の設置や植生調査に参加されていますが、やはり何度でも現場を見る方が良いので、まずは実験地を観察することからはじめました。近ごろは雨ばかりだったのですが、この日は快晴で、気持ちよい風が吹いていました。実験地に設置した波板は、設置した時と同じ状態で残っており、配水は順調に行われていました。また、植生の変化が認められ、特に一段目と二段目では、キンミズヒキやヨモギが衰退していることが確認されました。また、波板の設置によって作られた水路では、イモリが見つかりました。30分程度の観察の後、自然館に戻って意見交換をしました。以下に出された意見をまとめます。

【問題点】

1. 事業のすすみ具合がよく理解できていない。
2. 協議会以外からの積極的な提案・提言が少ないのでは？
3. 広島県やコンサルタントと自然史研究会との連帯が希薄なのは？
4. 一般市民（地元を含む）の関心が低い。

【問題解決のための提案】

1. 事業の進行について、ホームページに議事録を載せるだけでなく、一般の市民や中学生・高校生にも分かりやすいパンフレットやホームページを作って欲しい。特に「事業を行うことがどのような意義があるのか」を示すべき。
2. 意見を拾い上げるための仕組みづくりが必要なのでは？例えばアンケート調査やホームページの掲示板、メーリングリストなど。
3. 白川を通じてのみ情報を伝達するのではなく、できれば自然史研究会の集まりに広島県やコンサルタントの担当の人に来て頂いて話を伺いたい。
4. 「どんなものができるのか」が通りがかりの人にも分かるよう、調査や実験を行って

る場所に看板を立ててほしい。イメージ図があるだけでも関心が高まる。また、調査や実験についてのパンフレットが欲しい。

【水路設置実験から分かったこと】

1. 波板を設置すると斜面下側ではヨモギ・キンミズヒキなどが衰退した。
2. 波板によってできた水路ではイモリが確認された。
3. 他の陸生植物が抑制された場所でもハルガヤだけは変化せず、ハルガヤのみからなる群落となっていた。
4. 斜面下部であっても、凸部では植物群落の変化は確認されなかった。
5. ノイバラ・カラコギカエデなど、低木の生育状況に目立った変化は見られなかった。

【工法の提案】

1. 陸生草本の定着を抑制するために、配水路を設置することは有効。その際、適度に漏水するようにしておく。
2. 配水路自体が水生動物・水生昆虫などの生育環境として機能する。
3. ハルガヤについては配水路の設置だけでは除去が困難である。実際、ハルガヤと湿生植物が共存する群落も確認されている。従って、配水路設置後、時期を見てハルガヤのはぎ取りを行うなどの処理が有効なのではないか。
4. 配水路を設置した後も凸斜面では陸生植物が抑制されない。このような場所は、配水路設置後に時期を見て表土を除去するなどの処理が有効なのではないか。
5. 低木類については、工事初期に伐採し、その後も定期的に伐採を続けることで減らしていくと良いのでは。

【その他の意見】

1. 復元にあたっては、元あった植生を復元することを第一の目標にする。
2. 植栽や持ち込みなど、生物の人為的移入は行うべきではない。
3. はぎ取りなどの実験を続けて行いたい。
4. 中央部の水路は壊して、川の流れを自然に戻さなければ、本来の意味での復元にはならない。



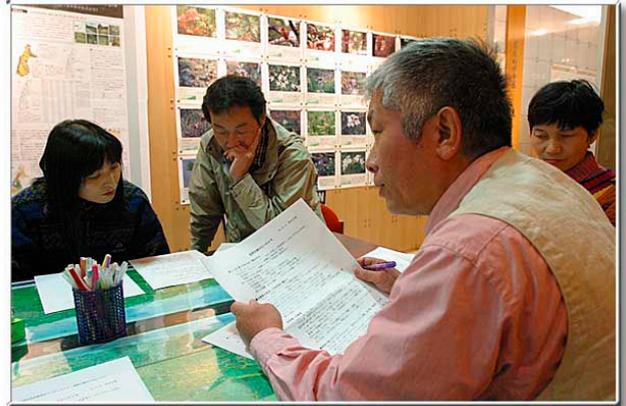
現地を観察することからはじまった。全体的にはやっぱり乾燥している。



浅い水たまりでイモリを発見！それだけ安定した環境ができているということ。



配水の効果が現れてキンミズヒキやヨモギが無くなった部分と、そうでない部分がはっきりと分かる。



現地観察の後は、高原の自然館で検討会議。



波板によって、浅い水たまりが作られていた。水も安定している。

「土曜日なので、参加できない」という連絡をいくつか頂きました。参加できなかった皆さん、すみませんでした。

11月7日には、芸北町民文化ホールで「八幡湿原自然再生協議会」が開催されます。こちらは、広島県が進める事業の一環で、県が行った調査結果をもとに、自然再生事業の進め方について、委員により検討される予定です。意見を発言することはできませんが、会議の内容は傍聴できますので、ご参加ください。

今回は、荒木さんに撮影していただきました。ありがとうございました。

活動報告

サツキマスの産卵観察会

開催日時：10月24日（日）9：30～

主催：西中国山地自然史研究会

協力：高原の自然館，芸北町民文化ホール

例年よりも2週間遅らせたことで、ブナはすっかり葉を落としてからの開催となりました。今年も室内で説明を聞いたのですが、サツキマスだけでなく、カワシンジュガイのことにも話が及びました。カワシンジュガイは芸北町の天然記念物で、西中国山地の個体群は分布の南限にあたります。水田の圃場整備などで生息地が激減し、各地で絶滅が危ぶまれています。芸北町の個体群も、絶滅寸前にあると思われていましたが、今年の夏、まとまった個体群が見つかりました。さらに、カワシンジュガイに産卵するアブラボテも分かり、うれしいニュースが重なりました。室内での解説が終わると、いよいよ野外での観察です。例年、実績のある場所をまわったのですが、一方の観察ポイントではほとんど見られませんでした。これは「大水で登っていったのでは？」という推論が出ました。観察会はここで一旦終わったのですが、観察会終了後に上流部を確認しに行き、上流への遡上を確認された方もあったようです。僕も4匹の遡上を確認しました。台風の大水は各地に大きな被害をもたらしましたが、サツキマスにとっては良い年だったようですね。できることなら、毎年上流まで遡上できるような河川環境を作っていきたいものです。



高原センターでスライドを使っでの説明からスタート。もうこたつが登場。



続いては、サツキマスの産卵の瞬間と、カワシンジュガイのビデオ。



アマゴのエラに寄生したカワシンジュガイの幼生も、鮮明に見ることができた。



観察ポイントで現れたサツキマス。メスは産卵床を掘るために、尾びれがぼろぼろになる。産卵は命がけだ。



しかし、例年に比べて極端に個体数が少ない。なぜか？



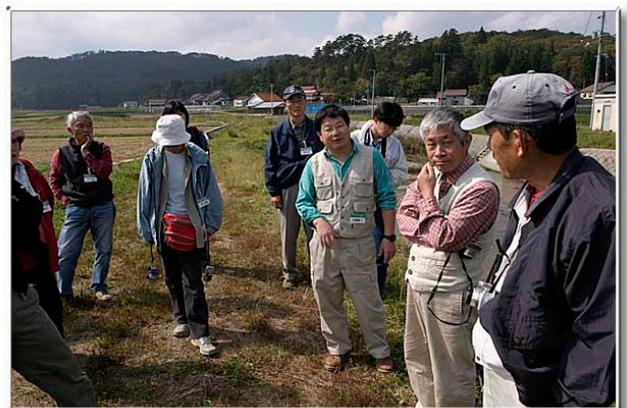
観察ポイント2。ここは、例年実績のあるポイント。



今年は台風や秋雨によって川が増水し、上に登っていったのではないか、という推論。



みんなでサツキマスを探す。



魚道のこと、ブラックバスのこと、カワシンジュガイのこと。話し合わなければならないことは山ほどある。

観 察 会 案 内

● 冬鳥の観察会

苧尾の紅葉が落ちるころ、八幡では冬鳥と秋に通過する渡り鳥が見られます。防寒対策をしっかりと、少し早起きして観察しませんか？
引き続き木の実と冬芽の観察会を行います。

開催日時：11月7日（日）7：00～

講師：上野 吉雄

集合場所：高原の自然館

準備：防寒着、雨具、双眼鏡、図鑑、メモ、おやつ等

定員：30名（必ず予約をしてください。）

参加料：1,000円（ただし、会員は無料）

● 千町原に草原を呼び戻そう！

—草刈り・除伐・片づけボランティアの募集—

長い間草原が維持されてきた千町原が、今、樹林に変わりつつあります。草原が樹林に変わるということは、単純に景観が変化することだけでなく、そこに住んでいる「草原特有の生物」も住みかを失うこととなります。人と関わりながら育てられた自然を守るために、行動を起こしませんか？草刈り機やのこぎりが無くても、切った木を運んだり、作業はいくらでもあります。力を貸してください！

開催日時：11月23日（火）9：30～

集合場所：高原の自然館

準備：作業のできる服装、軍手、（あれば）草刈り機・のこぎり

参加料：500円（昼食代、保険料を含む）

協力団体：

八幡地区住民有志、八幡湿原を守る会、カキツバタの里づくり実行委員会、芸北自然保護レンジャー、かりお茶屋（ぶなの里）、西中国山地自然史研究会、高原の自然館、芸北町民文化ホール

11月23日の草地整備は、多くの団体の協力によって行われる予定です。千町原は八幡高原のシンボルのような存在ですが、植物相も多様なことが分かっています。芸北町教育委員会が昨年発行した『カメラが語る昭和初期』には、マツムシソウが一面に咲いた千町原の写真が載っています。長い時間をかけて作られた草地を維持するために、作業に参加しませんか？

● 木の実と冬芽の観察会

紅葉が終わった後、植物はもう来年の春の準備を済ませています。春の新芽が詰まった冬芽は、ひよっとすると葉以上に特徴的なものかもしれません。今回の観察会では、葉も花も無い植物の観察会です。しっかり厚着をしてきてください。鳥の観察会に引き続き行います。

開催日時：11月7日（日）9：30～

講師：斎藤 隆登

集合場所：高原の自然館

準備：防寒着、雨具、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等

定員：30名（必ず予約をしてください。）

参加料：1,000円（ただし、会員は無料）

花 だ よ り

11月に入ると、八幡の周りの植物は葉を落とし、冬に向かって行きます。

【コナラの黄葉】紫の花が多く咲くこの時期にあって、造形も苧尾の山裾や自然館のまわりで見られます。黄色や橙色が混ざり、まさに錦秋を彩ります。葉は落ちる前に茶色になりますが、この時も西日に照らされると迫力のある景色になります。

— インターネット版のご紹介 —

苧尾電波塔はe-mailでも発行されています。また、高原の自然館ホームページからはpdfファイルをダウンロードできます。インターネットを利用すれば、関連ホームページにジャンプしたり、写真をカラーで見られたりと、便利です。

高原の自然館では、紙資源の節約と事務処理の軽減のため、インターネットの利用をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡芸北町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

nature@town.geihoku.hiroshima.jp